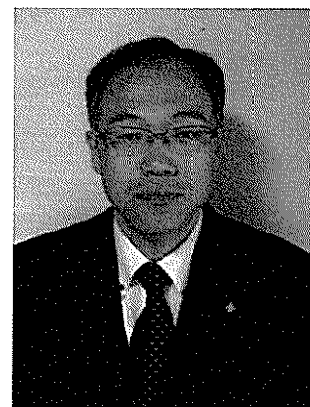


## 2016年度「日本木材学会中国・四国支部地域功労賞」

### ○氏名

川上 敬介（かわかみ けいすけ） 氏



### ○生年月日

昭和43年1月7日

### ○最終学歴、最終卒業年

1991年3月 鳥取大学農学部農林総合科学科 卒業

1993年3月 鳥取大学大学院農学研究科修士課程 修了

2007年3月 鳥取大学大学院連合農学研究科生物生産科学専攻 修了（鳥取大学・課程博士（農学）取得）

### ○所属機関

鳥取県林業試験場

### ○受賞題目

鳥取県における地域産材を活用した新規木質材料の開発と安定的生産に関する研究と技術支援

川上敬介氏は平成5年に鳥取県職員として採用され、平成7年に林業試験場木材加工研究室に所属して以来、一貫して鳥取県産材の加工・利用に関する試験研究とこれの需要拡大に従事してきた。特に、スギ、ヒノキ等の地域産針葉樹材を活用した新しい木質材料の生産に関する一連の研究成果は顕著であり、地域企業の発展に大いに貢献してきた。

鳥取県では平成12年に、日本で2番目となるスギ3層クロスパネル（商品名：Jパネル）の製造工場が設立されたが、当時、この製品に関する技術的知見は極めて少なかったため、同氏は原材料となる県産材の性能把握から人工乾燥、接着に至る一連の工程にかかわる技術的データを収集するとともに、企業技術者と協力して製造方法の改良を重ねた結果、安定した品質の製品を量産できるようになり、加えて壁倍率の大臣認定やAQ認証を取得することもできた。これらの業績は日本における3層クロスパネルやCLT（直交集成板）の先駆的な取り組みであり、この分野における川上氏の貢献は極めて大きい。

また平成20年から、我国で先行事例のほとんどなかったスギ・ヒノキによる構造用単板積層材生産に関する技術支援に取り組んだ。異等級構成や異樹種構成によるJAS取得をはじめ、原材料となる原木の材積を木口の画像処理により計測するシステムの開発と実用化、単板を「成熟・未成熟」で選別する手法の提案と実践等で、製品の安定的生産を実現するとともに、木材技術者の育成にも大きく貢献した。

これらに加え、川上氏は県産材を使った合板や構造用集成材に関し、単板やラミナの材質評価、製品の強度性能把握等に取り組み、得られた知見を県内合板メーカーやラミナを生産する製材所に提供し、県産材の活用と需要拡大に大きな成果をあげた。

社会活動においては、一般社団法人日本木材学会中国・四国支部の常任理事をはじめ、公益社団法人日本木材加工技術協会中国支部、森林バイオマス利用学会の理事、公益社団法人日本木材保存協会の広報委員として学会活動に積極的に関わってきた。また鳥取で50年以上続く産学官連携の研究団体「鳥取県木材工業研究会」では、役員として会の活動、運営を長年にわたり支えている。

以上のように川上氏は、中国四国地域における木材研究の発展と地域産業の振興に大きく貢献した。